

# インフォメイト

Vol.20  
November  
2018

【特集】

麻酔を受けるなら禁煙しましょう！

コメディカルについて

第1回食物アレルギーマネジメント  
セミナーを開催しました

非常用階段昇降機を導入しました

半日ドッグ項目追加のお知らせ

市民公開講座開催のご案内

麻酔科医の仕事は手術の間に患者さんを眠らせることだけと思うかも知れませんが、手術前に患者さんの身体の状態を良く知り、安心して手術に臨めるよう患者さんの心配事を取り除くこと、手術中に起こる予期せぬ危険な出来事を未然に防ぐこと、術後の回復を促すこと、これらもすべて麻酔科医の仕事です。

手術は手術室だけのことではありません。手術が決まったときから始まり、生活に戻るまでが手術です。手術前に重要なことはいくつもあります。その一つに禁煙があります。禁煙せずに手術を受けると、例えば傷の治りが悪い、感染しやすい、肺・心臓・脳などの合併症が術中・術後に多くなることが知られています。術後の死亡率が非喫煙者より増えるというデータもあります。しかも、喫煙



## 麻酔を受けるなら禁煙しましょう！

麻酔科部長 野中 明彦

皆さんは麻酔科をご存知ですか？最近ではテレビドラマにも手術の場面が出てきますが、ドラマのようないろんな変な医者や看護師がいたりするところではありません。

麻酔科医の仕事は手術の間に患者さんを眠らせることだけと思うかも知れませんが、手術前に患者さんの身体の状態を良く知り、安心して手術に臨めるよう患者さんの心配事を取り除くこと、手術中に起こる予期せぬ危険な出来事を未然に防ぐこと、術後の回復を促すこと、これらもすべて麻酔科医の仕事です。

手術は手術室だけのことではありません。手術が決まったときから始まり、生活に戻るまでが手術です。手術前に重要なことはいくつもあります。その一つに禁煙があります。禁煙せずに手術を受けると、例えば傷の治りが悪い、感染しやすい、肺・心臓・脳などの合併症が術中・術後に多くなることが知られています。術後の死亡率が非喫煙者より増えるというデータもあります。しかも、喫煙

## 地域医療連携室だより！

### 入院前看護面談について〜入院前からの支援

当院では、平成27年より入院・持参薬センターの機能に看護の専門性を統合させ、入院決定時から看護介入支援ができるように看護師が配置されました。現在、看護師は地域医療連携室に所属し、入院準備担当となっています。今年度の診療報酬改定で、入院前からの支援強化が推進されています。入院前からの支援強化が推進されています。入院前からの支援強化が推進されています。



院生活に必要なオリエンテーションを実施します。入院準備担当看護師は入院前看護面談をおこなっています。面談では患者さんの基礎情報をお聞きし、入院中の様々な不安や退院後の生活の不安をお聞きすることで、安心して入院生活が送れるように支援しています。また、必要に応じて介護保険の申請情報提供、高齢者の方にはせん妄の予防と対策についての説明をするなど、入院に関する様々な質問に対応しております。薬剤師は、入院・持参薬センターで服薬している薬と服薬状況を確認して入院前に確認しています。以上のような看護師や薬剤師が聞き取った情報を、病棟看護師や他の医療者と情報共有し、入院前からの支援に繋がっております。



## 《公立昭和病院の理念と方針》

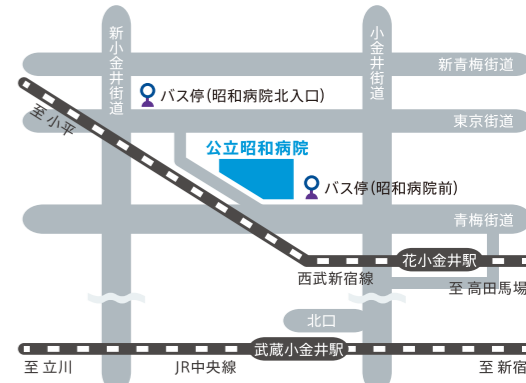
- 【理念】  
一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します
- 【方針】  
1 地域医療支援病院として地域連携を推進します  
2 科学的根拠に基づいた医療を提供します  
3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します  
4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います  
5 信頼される優れた医療人を育成します  
6 健全な病院経営に努めます



公立昭和病院  
〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1  
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912  
<http://www.kouritu-showa.jp/>

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に答えています。

### Access





# コメディカルについて

リハビリテーション科医長 岡田 真明

コメディカル(Co-medical)とは、医師・看護師以外の医療従事者の意味とされています。具体的にはリハビリテーション科では、以下で紹介する理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)などのスタッフを指しています。ちなみに、『コメディカル』は和製英語で、最近では、メディカル・スタッフと呼ばれることが多くなっています。

さて、「リハビリテーション医療チーム医療が大切」とどんな教科書にも書いてあります。

手塚治虫さんの代表作の一つである『ブラックジャック』の中に、下肢多発骨折した青年に対し、奇跡の手術で整復したブラック・ジャック先生が、最後にこう言います。「あとはリハビリだ。」初めて読んだ時、リハビリとは、ブラック・ジャック先生でも治せない、歩行再獲得を狙って達成するという、凄じい仕事だと勝手に感動していました。考えてみれば、先生は孤独ですから、根気のいる複数人での作業は苦手なんでしょう。

この、リハビリ科におけるチーム造りに欠かせないのが、PT・OT・STの3職種です。超高齢社会の中において、この3職種の果たす役割は非常に大きくなっています。



岡田先生が指導するシミュレーション



患者さんの状態に合わせた確なりハビリを提供します



# 非常用階段昇降機を導入しました

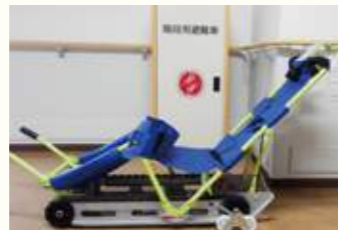
業務課

当院は、地域の高度・急性期医療センターとしての機能や役割を果たすため、国や東京都からさまざまな指定や承認を受け、地域医療支援病院や救命救急センターなど、重要な機能を担っています。そのため、院内の防災対策にも力を注ぎ、災害対応マニュアル等のソフト面から、建物の耐震化をはじめ、災害時に使用する機械・設備等のハード面にわたり充実及び強化に努めています。

近年では、大規模震災時の患者さんの避難搬送に関し、停電等によるエレベーター使用不能を想定し、上階にいる患者さんを安全に下階へ搬送する目的で、平成29年度に「非常用階段避難車」を導入、南館4階から8階の病棟に各1台設置したところ。そして、今年度は地下等の下階にいる患者さんを上階に搬送する目的で、「非常



非常用階段昇降機



非常用階段運搬避難車

用階段昇降機」を2台導入し、南館1階総合案内及び南館1階業務用エレベーターホール内に各1台設置しました。これは、バッテリーを有して電気モーターで動き、患者さんを上階に搬送できるもので、今までは大人で担架搬送していたものが、安全確認員を就けても数人で安全で、確実な搬送が可能となり、避難、搬送活動の一層の円滑化を期待しています。

平成30年10月から、半日ドックの検査項目に新たに眼底、眼圧検査が追加されました。このことから、特定健康診査の詳細な項目をすべて実施できるようになり



# 半日ドックの項目追加のお知らせ 予防・健診科

ました。構成市にお住まいの方は、税込26,460円でご受診いただけます。ご予約は、予防・健診センター(042-466-1800)まで。

半日ドック	
身体測定	問診・身長・体重・腹囲・脈拍・血圧
眼科	視力・眼底・眼圧
聴力	オージオメーター
肺機能検査	スパイロメトリー
胸部検査	胸部X線検査
心機能検査	心電図
上部消化管検査	ペプシノゲン・血中ピロリ抗体検査
腹部超音波検査	胆のう・肝臓・膵臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈
尿検査	蛋白・糖・潜血・比重・ウロビリノーゲン・尿沈渣・PH
大腸検査	便潜血検査(2回法)
血液検査	血液検査(一般、脂質、腎機能、肝機能、糖代謝、感染症、炎症反応、リウマチ、鉄)



# 第1回食物アレルギーマネジメントセミナーを開催しました

小児科医長 大場 邦弘

小児科では平成19年5月から、構成7市(小金井市・小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・東大和市・西東京市)に所在する病院小児科の中で唯一の日本アレルギー学会認定教育施設(正施設)として、アレルギー専門医と小児アレルギーエデュケーターの資格を持つ看護師・管理栄養士が中心となり、科学的知見に基づくアレルギー疾患医療を提供しています。

このたび、平成30年9月22日に、構成市の子どもを預かる施設の職員すべての方を対象に参加していただける「第1回食物アレルギーマネジメントセミナー」(参加費無料)を開催しました。平成27年12月25日から施行されている「アレルギー疾患対策基本法」という法律により、アレルギー疾患を有する児童が滞在する学校・児童福祉施設において、適切な医療的、福祉的又は教育的配慮をする努力義務が定められました。毎日の生活だけでも忙しい中、減多に起こらない食物アレルギーによるアナフィラキシーショックにも各施設で



大場先生が参加者に講演



参加者がエビペン®(実物)の注射を体験



より連携を深めようとする会話を重ねる

対応を講じることになり、心配なことも多いかと思えます。本セミナーでは、食物アレルギーに求められるマネジメントをアレルギー専門の医師・看護師・管理栄養士・薬剤師が分かりやすく解説します。また、アナフィラキシーショックが発生した際に命を守るアドレナリン自己注射薬エビペン®の適切な使用方法の実習も合わせて行っています。本セミナーとは別に、アナフィラキシーショック発生の実践的な対応方法を身に付けられるように、「アナフィラキシー小児救命シミュレーション講習会」も定期的に開催しており、施設の職員の方々と小児科医が直接顔を合わせ、共に訓練し、受診までの一連の流れがスムーズになるように努めています。今後も、当院にかかりつけかどうかは関係なく、アレルギー疾患をもつ地域の子どもたちが不安なく集団生活を送ることができるよう、子どもを預かる施設職員の方々と顔の見える連携に努めていきます。



# 市民公開講座開催のご案内

医事課

昭和病院では、皆さんに病気の予防や治療について正しく理解していただくとともに、昭和病院で実際に行われている治療をご紹介していく機会として、市民公開講座を開催しています。

この度は、第26回目の市民公開講座を武蔵小金井駅前の「小金井宮地楽器ホール」において、小金井市・小金井市医師会との協力をいた

だいて開催いたします。

第1位となっています。「がん」の恐ろしさは、初期にはほとんど自覚症状がないことです。そのため、自覚症状などにより病院に受診した時には、「がん」が進行しているケースも少なくありません。一方、早期に発見される多くの方は、人間ドックなどの健診で発見されます。そこで、今回はテーマを大腸がんについて、「がん検診や人間ドックなどの大切さ」「早く病気に気づき治療を開始する重要性と内視鏡的手術」「体にやさしい腹腔鏡手術などの外科的手術と最新の抗がん剤治療」についてお話しをする予定です。(左ポスター参照)

市民公開講座にお越しください。



©Studio Ghibli

小金井市イメージキャラクター「こきんちゃん」

公立昭和病院  
第26回 市民公開講座

日時 平成31年2月2日(土)  
開場: 14:00  
講演: 14:30~16:00

場所 小金井 宮地楽器ホール (大ホール)  
(JR中央線「武蔵小金井駅」南口駅前)

第1部 大腸がん検診の現状と課題  
小松外科胃腸科 院長 小松 淳二

第2部 大腸がんの早期診断、治療について  
~早期発見でお腹を切らずに治せます~  
公立昭和病院 内視鏡科担当部長 浦牛原 幸治

第3部 大腸がんの外科的治療・薬物治療  
~手術と抗がん剤についてのお話~  
公立昭和病院 外科・消化器外科医長 板橋 哲也

(お問い合わせ)  
公立昭和病院 医事課 医事管理係  
042(461)0052代 内線 2171  
東京都小平市花小金井 8-1-1

主催: 公立昭和病院 共催: 小金井市・小金井市医師会